

移住・定住の促進について

(総務常任委員会・所管事務調査報告)

平成31年1月

高松市議会

高松市議会では、毎年度、常任委員会ごとに、委員会の所管事項のうちからテーマを設定し、閉会中継続調査（所管事務調査）を行っております。

そこで、総務常任委員会としては、平成 30 年度の調査テーマを「移住・定住の促進について」に決定し、鋭意、調査検討を重ねるとともに、市民との意見交換会及び2回にわたる高松第一高等学校生徒との意見交換会での意見等を踏まえ、このたび委員会として調査結果を取りまとめたので、以下、報告いたします。

1 現状及びテーマ選定の理由について

移住・定住の促進については、昨年4月から、移住・定住促進施策や、日本版CCRCである生涯活躍のまち構想の検討など、移住・定住促進施策を戦略的に展開するため、新たに移住・定住促進室を設置したこの機を捉え、本市の取り組みをさらに強化する必要があるとの観点から、平成30年6月21日の委員会で所管事務調査テーマに選定しました。

2 委員会等の開催状況及び活動内容について

(1) 総務常任委員会

- ① 平成 30 年 7 月 26 日 当局から、本市の移住・定住促進策の現状等の説明・質疑応答

〔当局の説明概要〕

移住・定住については、たかまつ創生総合戦略の人口減少を抑制する戦略の基本目標の一つである、若者から選ばれるまちを創るに位置づけ、平成 31 年の 1 年間に転入と転出の差、いわゆる社会増を 1,000 人にす

ることを目標として掲げ、その目標達成に向けて、移住・定住に関する取り組みを効果的かつ戦略的に展開していくため、平成 29 年 3 月に、移住希望者のニーズ等を踏まえ、基本的方針等となる高松市移住・定住促進方策を取りまとめた。

その中で、移住促進方策としては、移住前の情報量の多さや移住後の人間関係のつくりやすさなどから、Uターン層を重視するとともに、20 歳代前半から 40 歳代の層、いわゆる大学新卒世代や子育て世代を最重点ターゲットとして、移住希望者のニーズに応えられる起業・就業のしやすさ、生活のしやすさ、子育てのしやすさという本市の三つの優位性を移住促進力として位置づけるとともに、定住促進方策としては、移住者が本市に愛着を持ち、安心して暮らすことができるよう、行政・企業・地域コミュニティー・市民等が幅広く連携し、仕事に関するマッチングのほか、地域コミュニティ協議会や市民等との交流の機会づくりに取り組むこととした。

これらを踏まえ、移住・定住促進に係る基本的方針を、本市の移住促進力を生かして各種事業に取り組むこと、また、移住者の安心や活躍につながる交流の機会づくりに取り組むこととした上で、移住者・移住希望者への総合的・継続的なサポート、仕事と移住者・移住希望者とのマッチング、本市の移住促進力を生かした効果的なプロモーション、移住者の地域社会での定着に向けた支援、本市出身者へのUターンに向けた長期的働きかけの五つの具体的方針に再整理し、この各方針に基づき、たかまつ移住応援隊、移住促進家賃等補助事業、瀬戸・たかまつ移住&キャリアサポートセンターなど、各種事業を展開している。

② 平成 30 年 11 月 16 日 先進地視察後の委員間討議

③ 平成30年11月29日 取りまとめ案の確認

(2) 視 察

平成30年10月18日・19日 先進地視察

○大分市

- ・U I Jターン促進の取り組みについて
- ・移住体験（おおいたアート移住見学ツアー）について
- ・大分市移住者居住支援事業について

○山口市

- ・移住・定住に関するプロモーションについて
- ・移住体験ツアー等の開催について
- ・山口市お試し暮らし住宅について
- ・移住者向け就労支援について
- ・山口市空き家バンク制度について
- ・山口市定住サポーターについて



18日 大分市



19日 山口市

(3) 意見交換会

① 市民との意見交換会

平成30年11月16日

② 高松第一高等学校生徒との意見交換会

平成30年10月5日・11月19日

3 委員会としての提言内容について

〔12月5日の委員長報告（閉会中継続調査終了）〕

(1) 移住促進の取り組みについて

- ① 暮らしやすさや子育てのしやすさ、生きがいなど、都会では得られない本市の魅力が、受け手に響くよう、より丁寧な情報発信に努めること。
- ② 移住者に対する民間賃貸住宅の家賃や、空き家改修に係る既存の補助制度に加え、移住・定住につながる補助制度創設について検討すること。
- ③ 移住を決断する上で働く場は最も重要な視点となることから、企業誘致を推進し、働く場の確保に取り組むとともに、地元企業への理解を深めるための企業訪問ツアーや、創造都市を標榜する本市が取り組んでいる瀬戸内国際芸術祭を初めとした、文化・芸術振興に関連したアーティストの移住を促進するツアーなど、ターゲットを絞った移住体験ツアーを検討すること。
- ④ 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の広域的な視点から、それぞれの魅力や地域特性を有する各市町が、より一層の連携を図り、圏域全体で移住促進につながるような取り組みを検討すること。

(2) 定住促進の取り組みについて

- ① 移住者にとってなれない土地での生活には不安等が生じることから、移住後の生活状況等についてのアンケート調査の実施や、移住後の困り事・疑問等を相談できる窓口の設置など、移住者に対する総合的・継続的なサポート体制を整備すること。

- ② 移住者が地域への愛着が生まれ、定住の促進につながるよう、地域コミュニティ協議会や市民等との交流の機会づくりを積極的に支援すること。
- ③ 進学・就職を控えた高校生など地元の若者に、地場産業や地元企業の魅力を知ってもらえるような取り組みを検討すること。